

リンゴのヒメボクトウに対する薬剤防除体系

ヒメボクトウの幼虫は集団で枝幹内部を食害し、樹体に大きなダメージを与える害虫です。長い幼虫期間のため、被害の発生を確認してから2~3年後に主枝または樹全体が枯死する場合があります。特にわい性台のリンゴでは主幹部が被害を受けやすいことが分かっています。そこで、福島県農業総合センター果樹研究所では、スタイナーネマ カーボカブサエ剤、コッシンルア剤、フルベンジアミド水和剤を体系的に組み合わせて処理することで効果的に防除できることを明らかにしました。

☆ 技術の概要

1. 成虫発生前の6月中旬に成虫の交尾を阻害するコッシンルア剤を目通りの高さに10a当たり100本設置します(図1)。
2. 成虫発生初期の7月上旬にふ化幼虫の食入を阻害するフルベンジアミド水和剤を散布します(図1)。
3. 春期(5月中旬~下旬)と秋期(9月中旬~10月上旬)に蓄圧式散布器を用いて幼虫の密度を低下させるスタイナーネマ カーボカブサエ剤を樹幹注入します(図1)。
4. 以上の対策を体系的に組み合わせて処理することにより、ヒメボクトウを効果的に防除することができます(図2)。

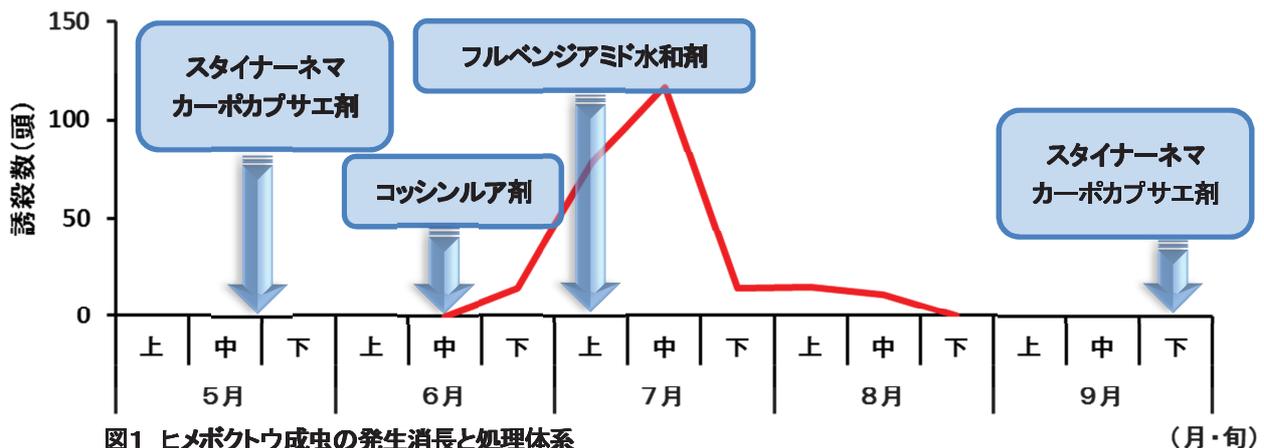


図1 ヒメボクトウ成虫の発生消長と処理体系

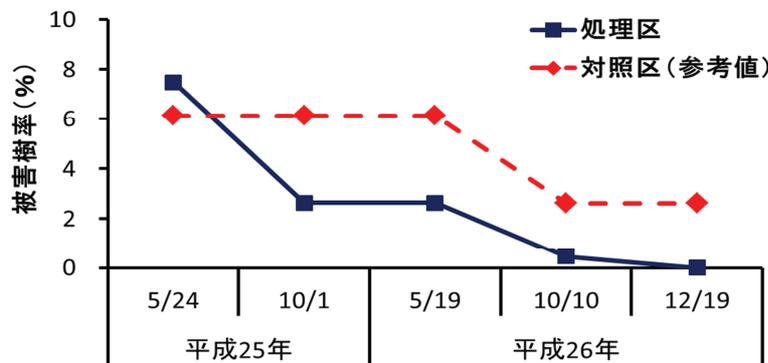


図2 ヒメボクトウによる被害樹率の推移

注1) 福島市内の現地リンゴ園(約 150a、227 樹)を処理区とし、同地区に慣行防除の対照区(約 65a、114 樹)を設置した。
 注2) 被害樹率(%) = (被害樹数 / 植栽本数) × 100
 注3) 平成 26 年 12 月 19 日に処理区の被害部 1 カ所を切除した。
 注4) 平成 26 年は園主により対照区も処理区と同様の対策が実施されたため参考値とする。

☆ 活用面での留意点

1. 早期に被害を発見し、被害発生地域では広域に対策を実施することが重要です。
2. 被害部の切除などの耕種的防除を併せて実施するとより高い効果が期待できます。
3. 詳細については、福島県農業総合センター果樹研究所 (024-542-4149) へお問い合わせください。
 (農研機構 果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人)